

『新華新詞語詞典』について

呉 悦

中国一流の専門家数十名により、1年を費やして編纂された『新華新詞語詞典』（商務印書館辞書研究センター編。商務印書館2003年1月出版。以下『新詞典』）は、1990年代以降の中国に見られる新語・新義・新用法、及びそれ以前に作られ今なお使用頻度の高い新語2,200語と、関連語約4,000語を収める。その内容は、政治・経済・科学技術・軍事・流行・教育等12の分野に及んでいる。『新詞典』は、編集スタイル・単語の収録方法などの面で独特な点が多く、新語辞典の編纂方法に対し、意義ある探求がなされている。

他の新語辞典と比較して、『新詞典』には、以下の特色が見られる。

一、 解釈形式が多様である。

新語は新事物・新概念の反映である。読者がある新語に対しまだ理解の浅い段階では、一般辞書の語釈プラス例文という解釈形式は、しばしば「渴きを癒せぬ」感覚を覚えさせる。この点に鑑み、『新詞典』では、通常形式に加え補充説明を付し、項目によってはコラムを設けて、読者の理解と把握を助けている。

例えば【电子雾（電子霧）】(p.68)の項では、まず「電子設備の使用過程で発生し、大気中に充満する、各種の波長（または周波数）の異なる電磁波。」と説明した後、これは「目に見えず、触れることができない、人類の生存環境を脅かす一種の污染源である。」と補足する。併せてコラムにおいて、ソ連のチェス国際チャンピオンが電子霧により命を奪われた例を挙げて、具体的にその危険性の大きさを述べる。このようにすることで、読者はこの語に対する理解をより深めることができるのである。

また、【拉尼娜现象（ラニーニャ現象）】(p.191)では、これを「東太平洋の赤道付近の海域に発生した大規模な海水表面の異常低温化現象」と示した上で、この語がスペイン語で「女の子」を意味する La-Niña からの音訳であり、エルニーニョ現象（スペイン語の El-Niño は

「男の子」とちょうど逆の現象であるためにこの名がつき、「反エルニーニョ現象」とも呼ばれることを補足している。その直後のコラムでは、この現象が中国の気候変化に影響を及ぼしている具体的な実例をも挙げる。これによって、読者はその新語を理解するだけでなく、それと別のある新語との関係を理解し、イメージすることができるのである。

二、「関連語」欄を設ける。

この欄は、語義や語構造の面で見出し語と関連のある新語4,000語を集め、語釈なしで掲げているが、それらの相当数が語釈を必要とせず、見出し語の意味から語義を類推できるものである。例を挙げると、【碘盐】(p.63)の意は「ヨウ素を含む食塩」だが、その「関連語」欄には「鉄(鉄)盐」と「硒(セレン)盐」の二語を掲げる。この方法により、紙幅の節約と簡潔な記述を実現し、なおかつ辞典の情報量を増加させている。(ただしこの欄の語については索引がなく、検索の手段がないのが惜しまれる。)

三、見出し語に英訳を付す。

英訳は事実上、編者の新語に対するもう一つの解釈であり、一つの創作とも言える。これによって読者は、新語を別の角度から考察し理解することができる。新しい事物や概念の一部は国外から入り、しかもその多くは英語と関係があるので、英語の注を施すことは、読者に語源から意味を解するという道をも与える。一例として、【一线通(総合デジタル通信網)】(p.384)の語釈「幅の狭い帯の総合業務デジタル網の俗称」は、英語のN-ISDNほどには、知られていない。また、【双赢(ともに勝つ)】(p.302)が英語の“win-win”から来ていることを知れば、「双方が共に利益を得る」という語釈への理解を深めることができる。

しかし、辞典は人々の語句検索に供する工具書として、実用性だけでなく、流通性・正確性・規範性・系統性を具えていなければならない。『新詞典』にはこれらの面で明らかにいくつかの不備がある。浅見ながら以下に述べてみたい。

1. 使用頻度の高い語の収録について

編者は編纂時に、新語の「使用頻度・散布度・流通度」について調査を行っているが、やはりなお現在よく使われる新語のいくつかを漏らしている。例えば1998年12月18日付『文彙報』に掲載の、関係方面の調査統計による「過去20年における流行語ベスト50」に挙げた“倒爷(ブローカー)・赞助(賛同し助成する)・甲A甲B(中国プロサッカー部AリーグBリー

グ)・大款(ニューリッチ)”等は、本書に収められていない。また、近頃新しい意味でよく使われるようになった語にも、遺漏が多い。“版本(バージョン)・错位(ポジションを逆さまにする、ずらす)・跳槽(転職)・广场(プラザ)・不好意思(すみません)・女強人(強い女)”等がその例である。学術上重要な新しい研究成果も、まだ反映されていない。一例として、“蚩尤(しゅう)”は、先頃学術界により中華民族三大始祖の一人と認定された。蚩尤は、炎帝・黄帝と同じく民族の祖先の首領で、三者は鬪争から融和へと至り、共に中華文明史を開いた。国語と百科を兼ねる辞書として、「蚩尤」の項目を収めていないのは、一つの欠点と言わざるを得ない。

この他に指摘すべきは、『新詞典』は採るべき新語を収録したとしても、取り扱いに問題があるということである。筆者は、例えば【利多(市場などの情勢に良い影響をもたらす)】(p.198)を見出し語に立てながら“利好”を「関連語」にしか載せないのは、あまり適当ではないと考える。なぜなら、“利多”と“利好”は使用頻度から見ると、筆者がパソコン自動検索システムで『人民日報』・『市場報』・『国際金融報』(2000-2003年)について行った調査によれば、各紙における両者の比率は、それぞれ2:68・57:820・630:3300となり、その差は『人民日報』が最大で34倍、最小の『国際金融報』でも5倍以上である。つまり“利好”の使用頻度は、“利多”をはるかに上回っている。また語義の面から見ても、“利好”は証券・金融等の各経済分野で用いられ、多くの場合、“利好”は“利多”と実質的に同義語である。例えば、『人民日報』(2003.7.16.)の見出しは“迎合民意，释放利多(世論に迎合し、大いに好況へ)”とあり、記事には“随着明年选举临近，预计当局还会有一系列的经济利好释放，以迎合民意，博取民心。(来年の選挙が近づくとつれ、当局は一連の経済活性化策により、世論に迎合し広く人々の指示を得ようとするものと見られる)”とある。この他にも“利好”は、政治や日常生活等において使われることがますます増えて来ているが、この場合“利多”が使われることはめったにない。

美中关系对于世界的进步至关重要。两国关系改善时，就像今天这样，对于整个世界都是一个利好的消息。(人民日报2002.11.6)

8月的大同，被老百姓喻为“实质性利好”的事儿一桩接一桩：城市道路“三大五小”改造工程即将完工，古城面貌焕然一新；农村饮水解困工程进入收尾，16万人将圆吃水梦；两大休闲广场建成笑迎市民；政务审批中心挂牌正式运作……(人民日报2002.8.17)

有迹象表明，各方面对厕所的关注度正在提高，最近时常传来“利好”消息。北京市已经把新建，改造公厕作为每年为百姓办的实事之一加以解决。(人民日报2003.1.25)

按照国家新闻出版总署的部署，今后新教材的印刷，发行将在各省范围内试行招标。这一消息，对全国广大自考生来说，无疑是一个“利好”。(人民日报2002.3.20)

以上の例から、「使用頻度・流布度・流通度」のいずれの基準から見ても、“利好”は最低見出し語に立てるべき語であることがわかる。

2. 新語の由来及びその伝播ルートの説明について

編集スタイルの一つとして、『新詞典』は、外来語や方言に由来する新語の項目で、英訳以外にも、他のどの言語或いはどの方言から出たものか、及びその伝播ルートについて明示している。さらに付録の形で“香港・マカオ・台湾流行語”と“北京・上海・広州流行語”を一括して収録する。このような語源表示スタイルは、語源に遡り、原義を明らかにする上で大変役立つ。例えば【扎啤(じょっきの生ビール)】(p.407)は「扎は英語の jar (広口瓶・広口のカップ)からの音訳。」と、【卡拉OK(カラオケ)】(p.177)は「カラは日本語の‘から’の音訳で空っぽの意、‘OK’は英語の orchestra の略、楽団を指す。」と指摘する。また【万艾可(バイアグラ)】(p.332)は、「英語の Viagra の音訳、この医薬品の中国語商品名。Viagra は、vigor と niagar の合成語。」とした上で、同時にこの語の俗称“伟哥”の変遷過程について、「初め台湾の医師が‘威尔刚’、大陸の医師が‘威尔坚’と訳し、後に香港の医師が‘伟哥’と訳した。」と紹介する。しかしこうした語に関して、『新詞典』は遺漏もかなり多い。例えば【卡拉OK】・【双赢】等は台湾から大陸へと入って来た語だが、このことを本書は説明していない。こうした状況は、日本語由来の語において特に甚だしい。筆者の見たとこ、日本語由来の見出し語は、【人气(人気)】(p.259)・【过劳死(過労死)】(p.121)・【宅急送(宅急便)】(p.407)・【友情出演(友情出演)】(p.396)・【企划(企画)】(p.242)・【物语(物語)】(p.348)・【写真(写真)】(p.362)・【瘦身(瘦身)】(p.295)・【卡拉OK(カラオケ)】の9項あるが、これらの伝播経路を示す時、あるもの、例えば【人气】・【友情出演】・【瘦身】・【卡拉OK】は「初め香港・台湾地域で多く用いられた」などとし、またあるもの、例えば【写真】・【物语】・【企划】等には、伝播に関する記述が欠けている。さらに語源を示していない【特卖(特売)】(p.315)・【消費税(消費税)】(p.356)・【最愛(最愛)】(p.436)・【量販店(量販店)】(p.201)・【新锐(新進気鋭)】(p.364)・【精算(精算)】(p.170)・【整合(整合)】(p.411)・【全天候(全天候)】(p.253)・【全方位(全方位)】(p.251)・【地缘(地縁)】(p.61)・【融资(融資)】(p.261)、及び新義を持つが指摘のない【充电(十分な休養を取る)】(p.35)・【蒸发(人がいなくなる、感覚などがなくなる)】(p.411)・【前卫(前衛)】(p.244)等の語が十数項にも上る。【族】(p.435)の項が「初め台湾でよく使われた」との説明で終わっているのに至っては、この語が台湾由来であるとの誤解を招く。

3. 新用法の収録について

「新語・新義」の他、『新詞典』は「新しい用法」をも収録範囲としている。辞典の語釈は、語義により項目を分けるという基本原則以外に、文法機能をも考慮に入れなければならない。ある語に別の用法が生まれた場合、新義と同様、それを新語辞典に反映させるべきである。『新詞典』が「新用法」を収録しているのは、まさにこのような考えによるものである。一例として、【多多(多い)】(p.76)が採られているのは、この語に「述語を作る」という新しい機能が備ったからである。この方針に従えば、以下の例の“問題”・“老”・“零”を項目に立てるべきであり、“担綱”に新しい文法機能を持つ用例をも挙げる必要がある。

“問題”

【問題少年(問題児)】(p.343)及び関連語の“問題菜・問題车・问题房”等，“問題”と関連のある11項目が採られているのは、この語に「連体修飾語を作る」という新しい用法が生まれたためである(この種の用法は日本語から来ている)。

“老”

“老”と関連のある項目は『新詞典』には三項ある。【老外】(p.195)には「(1) 外国人。(2) 外資系企業。」の二つの語義を収め、【老总】(p.195)には「技術者・編集者・社長等の肩書きを持つ人の尊称。」、【老记】(p.194)には「記者。」とある。これらの項からわかるように、“老”を接辞として用い人や事物を称する時、従来の“老”を伴う“老师(先生)・老二(次男次女)・老虎(トラ)”等の語とは、用法が明らかに異なる。すなわち、後に続くのは単音節であるばかりではなく、みな略称である。“老”の新用法については、単独に立項して解説すべきものと思われる。

“零”

『新詞典』は【零距离】・【零口供】・【零瓔存】・【零增长】・【零利率】(p.202-203)及び関連語の「零风险・零关税・零投诉」等13語を収めるが、“零”単独では項目を立てていない。“零”は主に、数がないことを示す。“一減一等于零(1-1=0)”・“医护人员零感染(医療従事者に感染なし)”・“我国内地非典疫情首次出现零死亡报告(国内のSARS感染状況は、初めて死亡報告ゼロを記録した)”等の例文は、意味の上からは項目を分ける必要はな

いが、文法機能に基づいて見た場合、後の二例の“零”に数詞としての性質は残っているだろうか。“零”は本来、単なる数詞として用いられ、一般に名詞や動詞を直接修飾することはない。“零桌子”・“零开车”などとは言えない。しかし“零”が人々の日常生活用語の列に加わり、名詞や動詞の直前に置かれるようになった時点で、この種の新用法の“零”には、数詞の「0」にはなかった文法機能が備わったことを物語っている。同時に、それまでの計算の意味は形骸化し始め、別義の発生や意味の拡大化をもたらされた。例えば、“零口供（供述なし）”の“零”は「手に入らない、提供しない」の意だが、“零中介（仲介料なし）・零首付（頭金ゼロ）”の“零”は「不要である」の意である。これらの状況は、“零”がもはや接辞となった、正確に言えば「接辞の類」或いは「準接辞」であることを物語っている。接辞の働きは、一般に単語の語構成の類化作用にあるので、ひとたび接辞となれば、後に伴う語が元来どんな性質のものであれ、それをすべて名詞性の言語単位に転化することができる。が、“零”族の語は必ずしもそうではない。“零”は動詞を伴った後でも、依然として動詞の性質を持つ。例えば“零增长（ゼロ成長）”は、以下の二例において、明らかに動詞として用いられている。

当一个产业的市场需求达到饱和以后，增长速度就会随着需求下降而下降，直至零增长，甚至负增长。（人民日报2001. 1. 16）

要实现可持续发展，必须走人口适度零增长之路。（人民日报2002. 4. 27）

“担纲”

【担纲（全責任を負う）】(p.50) が動目式動詞にして、目的語をとることができるというのは、注目すべき用法である。なぜなら動目式動詞は、大部分が目的語をとらないからである。以下に例を挙げる。

在本届世锦赛上，中国队主力二传手冯坤略显稚嫩，但已经在本次国际大赛中担纲主力。（人民日报2002.9.14）该剧由不久前荣获第二十二届金鸡奖最佳男主角奖的蒙古族演员宁才参与编剧并担纲导演。（人民日报2003. 3. 21）

しかし『新詞典』に見える三つの用例は、いずれも目的語をとらない用法である。これでは“担纲”が目的語をとれない自動詞であるとの印象を受けやすい。このような用例まで挙げる必要があるのだろうか。

もちろん国語辞典とは、文法機能の情報に重点を置いた用法辞典とは異なり、やはり語義を主要な基準に、文法機能は補助的な基準として、見出し語を選ぶべきである。しかし筆者が思うに、新語辞典は結局、新事物・新概念の反映が第一の任務である。新たな用法が新聞・雑誌

に頻繁に現れたなら、それをすばやく辞典に反映させ、早めに収録すべきである。

4. 造語力の高い語幹と接辞の収録について

新語の中には、造語力が比較的高く、一連の語群を作ることができる、語幹（または語根）と接辞がある。それ自体（派生語を含む）が新語である場合、或いは従来の語に新義や新用法が与えられた場合には、それらの語幹や接辞を独立した項目として立てて、解説を加えるべきである。でないと本末転倒の感を免れない。『新詞典』はこの面で努力しており、例えば【飄族】(p.235)・【波波族】(p.20)・【追星族】(p.429)と関連語の“海归族・工薪族”等合わせて18語を収録すると同時に、【族】を単独項目として立て、解説している。その他同様に解説した項目は、【阳光】(p.380)・【的】(p.59)・【吧】(p.6)・【秀】(p.373)・【炒】(p.29)等である。しかし項目を立てていない語幹と接辞もあり、辞典において語義系統を示すことを妨げる上に、体裁上の厳密さを欠く感がある。以下に例を挙げる。

“网”

“网”の新義は“电子计算机互联网络（コンピューターネットワーク）”の略称である。本書はこの語義と関連のある多くの新語、例えば【网吧】・【网虫】・【网恋】・【网校】(p.333-338)等20語を収めるが、“网”単独では項目を立てておらず、これはあってはならないミスと思われる。（『新詞典』のみならず、『現代漢語詞典』2002年版・『応用漢語詞典』・『新華詞典』等にも収録されていない。）

“官”

『新詞典』には【首席执行官（最高経営責任者CEO）】(p.294)及び関連語の“首席财务官・首席运营官・首席知识官”等“官”を語幹とする15語を収めるが、まだ“官”を一字の見出し語として立ててはいない。すなわち、意味の変化した“官”の新しい情報を読者に伝えてはいない。“官”の原義は「政府機関または軍隊で任命を受けた一定等級以上の公務員」（『現代漢語詞典』p.464）であるが、新義では現代の企業における関係部門の責任者を指す。以下の数例に見える。

意大利大部分地区28日晚电力供应陆续恢复，但电力能源公司的官员说，该国部分地区29日还可能出现短时间停电现象。（人民日报2003.9.30）

从三年前安然事件至今，下台的美国证券界高官多不胜数。（人民日报2003.9.22）

到九十年代，他开始接触大量的企业干部和技术官员，感到他们观念新，反应快。（人民日报

海外版2001.6.27)

“综合征”

『新詞典』は【更年期综合征】(p.107)・【疲労综合征】(p.232)・【睡眠呼吸暫停综合征】(p.305)・【网络综合征】(p.337)等“综合征(症候群)”を語幹とする病名4語を収めるが、“综合征”を独立した項目に立ててはいない。“综合征”は、もと“综合症”と表記した。“症”の意が「疾病。病氣・急病・不治の病・状況に応じ適切な解決策をとる、等の語に用いる」(『現代漢語詞典』p.1609)であるのに対し、“征”は「現れた予兆や現象」(『現代漢語詞典』p.1602)を意味する。医学で、一つの病氣について言う時には“症”を用いるが、一連の疾患について言う場合は“征”を用いる。前述の4つの病名が指すのは、いずれも患者の身体に同時に現れる一連の症状、一組の疾病である。よって“征”を用いた方が、より正確である。一字を改めたことは、表現の厳密さと精確さを反映している。『人民日報』は2002年より、“综合症”を“综合征”へとあらためた。先ごろ流行した“非典(SARS)”もまた、“严重急性呼吸综合征”と訳された。『新詞典』には、直ちにこの変化が反映されているが、“综合征”を単独の項目には立てておらず、やはり読者には疑問が残る。

このほか、【哈日】・【哈韓】(p.122)及び関連語の“哈狗族・哈衣族”等を収めながら“哈”を採らない、【蹦迪】(p.14)・【迪厅】(p.59)及び関連語の“迪吧”を採って“迪”を採らない、【亲子鉴定】(p.247)を採って“亲子”を採らない、【亲水住宅】(p.247)を採って“亲水”を採らない、【新新人类】(p.365)を採って“新人类”を採らない等の例が見られる。

新しい用法を生みかつ高い造語力を備えた“零”や“老”，そして既に『新詞典』に収められた【族】及び未収の“超～(超豪華/超豪華)・全～(全方位/全方位)・多～(多功能/多功能)・准～(准丈夫/準主人)・～中(營業中/營業中)・～流(資金流・物流/資金フロー・物流)・～面(政策面・贏面/政策面・勝率)”等は、新時代の中国語の一つの新しい接辞化の方向とプロセスを代表している。よって筆者は、これらは新語辞典に収録すべきだと考える。『新詞典』は接辞としての提起はしていないが、国語辞典とりわけ新語辞典として、一字項目を立てて解釈をする場合には、単音節接辞(または「準接辞」・「接辞の類」)の問題を考慮しないわけにはいかない。一步譲って、たとえ中国語にこうした接辞の問題があることを認識しないにしても、我々はこの言語現象を収録し解説すべきであろう。

5. 日本語由来の語の漢字原表記の収録について

筆者は、日本語由来の新語は、他の外国語由来の新語同様、“卡拉OK”といったカタカナ語またはひらがな語に限らず、すべてその言語の原表記を付すべきであると考え。ここには

辞典の体裁の統一の問題ばかりでなく、日本語の原義検索の便と、中日両国の用字法の違いの問題がある。一例を挙げると、【阿訶里】(p.449)を『新詞典』は「日本語から」とするが、日本語もとの漢字表記を付していないため(ひらがなである可能性もある)、この説が確かであるかどうか調べる術がない。また、この語の日本語における使われ方を知ることも出来ない。日本語由来の語の漢字表記の問題については、両国の漢字簡略化の違い、例えば“人気”は日本語では“人気”、“过劳死”は“過劳死”と書くなど(唯一【物語】(p.348)だけは例外的に「日本語の漢字語‘物語’による」と指摘した上で、ひらがなも付す。しかし日本語の用字を示すのに、なぜ中国語の簡体字を使うのが、普通では考えられないことである。)の問題だけでなく、本字と異体字の問題も存在する。【企画】(p.242)を例にすると、『新詞典』はただ「日本語から」と記すのみで、日本語の原表記「企画」を載せていない。筆者は、これは単純な用字法の違いの問題ではないと考える。この場合、日本語では本字を用い、中国語では異体字を用いている。“画”はもと“畫”に作り、元来二つの音を持つ。古音において、一つは入声麦韻匣母、もう一つは去声卦韻匣母である。入声音は本義を示し、「とがった物で分割するまたは表面に刻む」の意、去声音はそこからの引伸義で「図画」の意を表す。(実は現在でも、日本語や呉語など一部の中国語方言では、二通りに区別して読む。)後に両者を区別するために、本字の“畫”には“刀(りっとう)”が加えられ、異体字の“劃”ができた。これがすなわち後に簡体字化された“划”である。「企画」に先駆けて中国に入ってきた日本語由来の「計画」が“计划”に変えられたのもこの種の混同が原因である。以上のことから、日本語の原表記を付すことは、日本語の語源検索に役立つばかりでなく、両国の漢字の差異を理解し、それによって語義を深く理解する上でも有利なのである。辞典たるもの、できる限り多くの知識を読者に提供すべきである。それは編者の初志を貫くことでもあると思う。

6. r化語の処理方法について

現在のところ、国語辞典のr化語の選語・排列方法はまだ統一されていない。例えば『新華詞典』(2002年修訂版。以下『新』)は、一字項目の【把 bà (器具の取っ手)】(p.22)の処理において、『現代漢語詞典』(1996年修訂版。以下『現』) (p.20)と同様、小字の“儿”をつけた形で“把儿”と表示し、多字項目及び用例でも、【模特儿 (モデル)】(『新』 p.693. 『現』 p.894)や【刀把儿 (刀のつか・刃物の柄)】(『新』 p.22. 『現』 p.253)のように小字の“儿”を加える方式をとっている。しかし、『現代漢語詞典』と異なる箇所もある。すなわち、『新華詞典』は小字の“儿”をつけるか否かの基準をr化による意味変化の有無に置いており、口語中のr化語すべてに小字の“儿”をつけているわけではない。例えば“花儿”とr化しない“花”とは意味上の違いはないので、“儿”をつけない。(『新』 p.412)ところが『新詞典』は、『新華詞典』を基礎とし、且つまた『新華系列辞書』の一つでありながら、r化語の処理にお

いては『新華詞典』から大きくかけ離れた方式を採っている。一字項目には、【腕儿（芸能界の人気タレント。売れっ子）】(wànr) (p.333)・【托儿（露天商などの）さくら】(tuor) (p.328)のように小字の“儿”ではなく大字の“儿”をつけるが、多字項目の【大腕（トップスター）】(p.48)・【医托（うまい言葉で病人をだまして仲間にせ医者や診療所をすすめる者）】(p.385)及び関連語の“布托・飯托・房托・賄托・婚托・药托”の処理においては、大字“儿”どころかピンインの“r”さえも一切を切り捨て、“花”の類の意味の変わらないr化語と同様の処理を行っている。筆者は、r化語をいかに処理するかは、討議が許される問題だと考える。一篇の辞典・一系列の辞書は、独自の見解を持って良いし、また持つべきであるが、編集の基準と方法は必ず一貫していなければならない。「r化語」にかかわる問題はすべて、同一の基準と方法によって処理する必要がある。もしやむを得ず変更する必要を認めた場合には、少なくとも「凡例」中に説明を加えなければならない。すなわち、読者の混乱を避けるため、有機的・総合的意識に基づいて、全編を入念に整え、相互に対照し、恣意的にならぬよう厳密に注意を払わなければならない。

7. 語釈における問題例

【搞定（うまく取りはからう）】(p.105)

『新詞典』の語釈は、「もと、広東・上海等の地域で用いられ、‘搞掂’と書かれたが、標準語に入ってから多く‘搞定’と書かれる。」である。

この記述は精確さに欠けると思われる。“搞定”は広東語から来ており、元来“搞掂”と記した。“掂”はまた口偏（くちへん）に作るものもあり、dimと発音し、閉口韻に属する。その後上海に入ったが、上海語には閉口韻がないので、“掂”は広東語のdimとは大きく異なるdiと発音され、それと共に“掂”の字を発音に近い“定 din”に改めた。このことから、“掂”が“定”に変化したのは上海語に入った後のことで、「標準語に入ってから」ではないと断定できる。同様の問題が見られる箇所として、他に【新新人类】(p.365)がある。『新詞典』には、「初め、香港・台湾で多く用いられた。」とあるが、実際にこの語が最初に現れたのは、台湾のテレビ局が制作したウーロン茶のCMコピーにおいてで、その後香港を経由して大陸に入ったのである。

【掲标】(p.162)

『新詞典』の語釈は、「入札機構が文書に定める時間・場所・方法により、すべての入札希

望者を集めて、すべての入札価格を公開すること。“开标”とも言う。」である。一方【开标】については、『新詞典』は“揭标”と語釈をつける。(p.177)

考えるに、“揭标”と“开标”は、互いに置き換えることができない場合がある。“揭标”には「入札結果の公表」の意もあるからである。

广东省2002年重大科技项目招标今日揭标，22家科技企业中标。(人民日报华南新闻2002.7.3)
道路建设招标工作已进入尾声，并将于本月中旬确定中标者，揭标后，施工单位将立即开赴现场。(市场报2001.12.13)

国家开发银行50亿元一年期金融债券暨主协议签字仪式今天在此间举行，以国有商业银行和商业保险公司组成的承销团代表出席了签字仪式，中标承销商的代表在协议上签字。(人民日报1998.9.3)

如今，除了涉及国家机密和国家利益，其他再大或再小的工程都由国家有关部门组织在全世界公开，公平，公正地进行招标，有能耐的来投标，够水平的来竞标，严格遵守法定程序来揭标，严格按照国际惯例来操作。(人民日报海外版2001.11.1)

【蛋糕（カステラ）】(p.52)

『新詞典』の語釈には、「元来一種の食品を指したが，新義では，共有する社会財産や利益等の比喩。」とある。

思うに，この「共有する」という修飾語は，少しわかりにくい。果たして社会財産に，共有でないものがあるか。また，後の「利益」は「共有する」の修飾を受けるのか。そうであれば，次の用法はどう解釈すればよいのだろうか。ともかく「共有する」は，蛇足である。この他，以下の多くの用例により，“蛋糕”には更に「ある種の製品の市場規模の比喩」という新義もあることがわかる。

在发达国家，平均三户人家就有一辆MPV，其市场不容小觑。在轿车市场竞争激烈的今天，MPV自然成为众多厂家争抢的“蛋糕”。(人民日报2002.4.26)

为了将蛋糕做得更大，美联航曾在1999年宣布兼并美国航空公司。(人民日报2002.12.12)

新天有葡萄种植的资源 and 规模优势，我们已经实现总成本领先，形成了规模效应，降低了产品单位成本。新天人以做大葡萄酒‘蛋糕’为己任，就是要促成葡萄酒的价格回归。站在这个角度来讲来看新天人，大家就会理解新天。新天人的使命就是让更多的中国人饮用葡萄酒，而不一定只喝新天酒。(国际金融报2003.9.9)

蒙牛在和竞争对手的较量中，决不靠贬低对手以抬高自己的手段。采取共存共荣，共同将蛋糕做大的策略。(市场报2003.8.18)

要把婚庆市场的蛋糕做大，婚庆公司，餐饮，旅游，宾馆等各行业要加强合作。(人民日报2003. 9. 26)

【反弹 (リバウンド)】(p.84)

『新詞典』は、「元来、運動する物体が、それを阻まれて反対方向へと弾き返されることを指す。新義では、下降してからまた上昇することの比喻。」とする。

しかし、“反弹”は他に、「反発する或いは反対する・反撃することの喩え」という新義も持つ。初めは台湾で用いられた。

当局派出大批警员在重要地点站岗，希望杜绝“买票”行为，甚至发出“严禁杀猪宴客”的禁令，引起“原住民”的强烈反弹。(人民日报2003. 7. 30)

巴民族权力机构21日凌晨发表声明，决定采取必要措施限制巴激进组织的活动，并支持阿巴斯政府采取收缴武器，禁止武装展示等措施。但阿巴斯此举在巴内部引起了极大震荡。有人担心，巴方如果行动过度，可能导致哈马斯等组织强烈反弹，甚至有爆发“内战”的危险。(人民日报海外版 2003. 9. 8)

由于美国在巴以冲突中一再偏袒以色列，中东与美国的关系处于低潮，这些国家的民众对美国更是不满有加，甚至充满敌意。“倒萨”会在阿拉伯国家民众中引起反弹，也有可能影响政权稳定。(环球时报 2002. 10. 21)

【死机 (フリーズ)】(p.306)

『新詞典』は、「コンピューターが、プログラムのミスや操作のミスなどにより、異常に動作を停止すること。」と解釈する。

思うに、現在では機械設備の異常な停止は、ほぼすべて“死机”と呼ばれており、コンピューターに限られてはいない。

爱立信 T28sc 手机有问题在行内已经不是秘密。最大的问题就是使用一段时间后，突然死机。(人民日报 2000. 8. 22)

前不久，钟先生购买了一款索尼爱立信 T102 型手机和一个1352 打头的神州行号码。使用中发发现，发送短信时频繁死机。(京华时报 2003. 3. 11)

市民平时常看到有人强力“撑”开电梯门以等候他人乘电梯，或者为搬运材料，强行撑开电梯门，从而造成电门死机或燃烧。(江南时报2003. 7. 27)

『新詞典』の編纂方針によれば、この辞典は今後二年ごとに改訂を行い、目まぐるしく変わ

る中国社会の現代の特徴を反映して行くとのことである。そのためにも、編者が多くの人々の期待に応えて、これまでの経過を真摯に総括し、更に十分な情報を盛り込んで、絶えず編纂方法を改善しつつ、『新詞典』の総合的な質の向上を図るよう、切に希望する。

注

「OK」は orchestra の略」との表現は、精確さを欠く。英語のこの語には“K”の字を含まない。実際には“OK”は日本語の「オケ」に音を当てたもので、「オケ」は英語の orchestra による外来語の略語である。よって正確には、「卡拉」は日本語「カラ」の音訳で、空っぽの意、「OK」は日本語の「オケ」の音訳で、orchestra を音訳した日本語の略称、楽団を指す。」と記述すべきである。ついでに指摘しておくとして、本書の日本語「から」の「ら」が、誤って「ろ」となっている。またこの語を用いる場合、正式にはカタカナで「カラオケ」と表記すべきである。

呉悦・筒井紀美『中国語新語の中の日本語語彙についての研究』（『日中言語対照研究論集』第5号 白帝社 2003年5月）参照。

呉悦『改革開放後における外来語の受容について』（『立教大学言語人文紀要』第5号2000年）参照。前後の対応が一致していない例は、用字についても見られる。例えば見出し語【板块】(p.8)は、【强档】(p.245)の語釈のために引用された例文中では“版块”となっており、いずれが正しい表記であるか不明である。

参考文献

1. 《現代漢語詞典》中国社会科学院語言研究所詞典編集室編（1996）商務印書館
2. 《新華詞典2001年修訂版》商務印書館辭書研究中心修訂（2001）商務印書館
3. 《实用広東語分類辞典》麦耘著（1997）広東人民出版社
4. 《応用漢語辞典》商務印書館辭書研究中心修訂（2000）商務印書館
5. 『最新实用中国語辞典』孫猛・王曙光（2002）隆美出版
6. 《再談漢語新的詞綴化現象》沈孟瓔 載《詞彙学新研究》(1995) 語文出版社
7. 《字・詞・詞典》程栄（2001）上海辞書出版社